

## 第11回世界ファブラボ会議への参加・研究発表

慶應義塾大学環境情報学部4年 71240207 浅野義弘

### 1. 活動日程・会場

第11回世界ファブラボ会議は、2015年8月2日から同9日まで開催された。会議期間中に多数開催されるイベント・ワークショップの内、デジタルファブリケーションに関する論文・ポスターの研究発表を行う”Research Papers and Posters”セッションは8月4,5日の両日にわたって開催され、これに参加した。会議の会場はボストンにあるMITメディアラボを中心とした一帯であり、研究発表はキャンパス内にあるBartos Theaterで行われた。

### 2. 活動の内容

ファブラボとは3Dプリンタやレーザーカッターなどのデジタル工作機械を備えた市民包摂型の工房のことであり、今やその数は200を超えるに至っている。ファブラボではグローバルなネットワークが重視され、年に一度各ラボの代表者を集めた世界ファブラボ会議が開催されており、第11回目となる今年度はボストンで開催された。学部2年時には横浜で開催された会議の運営に携わっていたが、今回は自分の研究活動の成果を発表したいと考え、リサーチのセッションに論文を投稿したところこれが受理され、現地での発表を行うこととなった。

研究発表を行った「LunchBot」とは、既存の3Dプリンタをハックして制作した食に関するファブリケーションマシンである。具体的には、PC上で制作した図柄をもとに、各色に対応した位置にふりかけ(粉末状の食材)をプロットしていき、自由な模様を描くことができる。キャラ弁文化をはじめとして、食をデザインして楽しむ行為はかねてから行われていたが、デジタルファブリケーションマシンの力によって、より多くの人間が食に介入し、新た

なコミュニケーションが創発されるビジョンを示す研究である。

### 3. 活動の成果

セッションでは、「Lunch Bot : Furikake drawing machine to make Charaben」と題して 10 分間の英語によるプレゼンテーションを行った。また、同じセッションで発表された 20 前後の研究を閲覧し、同席した参加者との討論・コミュニケーションも行うことができた。

また、会議に伴って開催された他のトークセッションやワークショップについても、広く見学・参加することができた。なかでも 8 月 8,9 日に開催された Boston Fab Fest では、別に参加していた研究室のメンバーと合流し、ともに製作物の展示・デモを行った。身内以外にはほとんど日本人がいない状況であったが、自分たちの活動を実演を交えながら伝えることができたのは大きな収穫であったと言える。

### 4. 今後の課題

初めての英語での論文発表であったが、無事に発表を終えることができた。しかしながら、その後の討論やワークショップへの参加において、やはり英語のリスニング・スピーキングに力不足を感じる機会は多く、さらに修練しなければならないと感じさせられた。

また、世界各国のデジタルファブリケーションに関する最新鋭の研究成果を多く目の当たりにし、技術面での力量差を強く感じる事となった。初めての海外経験であったが、そこで感じた世界の広さを糧に、さらに研究活動に励む所存である。

### 5. 謝辞

研究発表に際し、湘南藤沢学会より渡航費の一部をご支援いただいた。ここに深く感謝の意を示したい。